

朝鮮民主主義人民共和国・緊急救援活動報告

1997.8.1

訪朝団団長 村井 雅清

私達が共和国の食糧危機に対して緊急救援を呼びかけた5月13日から、事態はより深刻になっている。その最大の原因は6月から続いている長い干ばつにより、今年夏の終わりから秋にかけて収穫が期待されているトウモロコシや穀物に大きなダメージを与えていることである。私達が訪朝していた7月22日にやっと半日の降雨があったが、平壤だけで江原道は降らなかった。10日早ければ大分助かっていた所もあるが、すでにトウモロコシ畑が死んでしまった所が少なくないようである。共和国水害対策委員会（水害対策委員会）は「我々共和国の人民は一致団結し自力で復興作業に取り組み、また自力で生産性を高めることが基本である。」と強調しているが、一方、世界食糧計画（WFP）の報告しているように26万人の子供たちを助けなければならない現実も認めており、苦慮している。「とにかく食料さえあれば・・・」と水害対策委員会の副責任者は言っており、続けて「干ばつの被害も予想されることから、共和国政府としてさらに国際的援助を呼びかけなければならない。」と語っている。（7月末には政府として国際援助を呼びかけるとのこと）

7月9日WFPが出した報告では、事態はさらに深刻である。それは今年の初めは標準体重以下の子ども達は15%だったのが35%に上昇していること、重度の栄養失調の子ども達は飢餓の上に肺炎・下痢症状が襲いかかっていることを強調しており、援助の追加を呼びかけている。今年秋の収穫を見込んでも、まだ100万tの米が必要と言われている。今回の訪朝団として緊急な医療的処置の必要性に加えてむしろ懸念されることは、26万人の子ども達の裾野にいるいわゆる栄養失調予備軍のことであるすなわち標準体重以下の子ども達にハイカロリーの食糧を供給する必要があるということである。（ビスケット、粉ミルク）。WFPは今後国連食糧農業機関（FAO）と協力しながら、特に6歳以下の子ども達に力を注ぐと共に近々医療関係者を含む50人のチーム編成をし、全土にわたって調査団を派遣する方針であるという。水害対策委員会も認める貯蔵米がゼロであること、今年からは配給が100～300gに減っていること、さらに今期の干ばつの影響で予想される今秋の収穫減を考えると、この8月、9月の2ヶ月間にできるだけ多くの米を中心とする穀物を援助しなければならない。

訪朝団は今回、約56tの米類とビスケット・粉ミルク・インスタントラーメン・砂糖、さらに衣類750箱を援助したが、余りにも少ない数字である。後記のように東海岸の元山、アンピョンの1市1郡5ヶ所の育児院・託児所・保育園・幼稚園・病院と配布してきたが、残念ながら砂漠に水を一滴落とすようなものであった。WFPの報告にもあるが、現在子ども達に与えられている平均1日100g～150gの米を250gにすることが緊急課題である。その為には早急に80万tの米が必要である。前述したように新たな被害として予想される今期の干ばつの影響も深刻となるが、共和国の人民は金正日書記の名のもとに、小学生から大人まで文字通り一致団結してこの困難を乗り越え、秋の収穫に取り組むだろう。しかし何度も繰り返さざるを得ないが、子ども達特に6歳以下の幼児には秋まで待てない現実があることを世界各国の人々は考えなければならない。政治的な問題はさておき、とにかく人道的立場から食糧危機に脅かされている子ども達に手を差し出さなければならないことを私達訪朝団は強く呼びかけたい。当然の事ながら今回の第一次救援に引き続き、継続支援を訴えたい。

最後に訪朝の間、いくつかの朝鮮革命博物館、朝鮮歴史博物館などの施設を視察させていただいたが、日本国と朝鮮民族との間にある不幸な歴史（侵略、残忍な虐殺、従軍慰安婦等）を直視することから、私達の救援は始まらなければならないことを痛感した。訪朝の間、故金日成主席と共に抗日戦争、独立運動を戦ってきた78才のファン・スニ女史に偶然にも2度にわたってお会いしたことが忘れられないことを付記し、第1次訪朝団のレポートとする。

朝鮮民主主義人民共和国・緊急救援活動記録

- 4/28 (月) 国連世界食糧計画 (WFP) の緊急食料援助を呼びかける声明
被災地での救援活動模索、名古屋・新潟での受け皿模索
- 5/13 (火) 朝鮮民主主義人民共和国・緊急救援実行委員会を結成し、緊急アピール
- 「在日本朝鮮人総連合会 (以下総連と表記) 兵庫県本部の祖国支援を市民・NGOのネットワークが総力協力をする」

◎物資について 米類・・・日本キリスト教団新潟教会
衣類・・・子ども支援プロジェクト名古屋・同日進
その他食糧・・・阪神大震災地元NGO救援連絡会議

◎募金について・・・阪神大震災地元NGO救援連絡会議の口座に指定振込
- 5/14 (水) 記者発表
- 5/15 (木) 草地・村井、新潟に出張
～ 新潟教会、敬和学園等と打ち合わせ
- 5/16 (金)
物資輸送、スタッフ現地派遣についての連絡調整
新潟・名古屋も独自アピールを広報
- 6/24 (火) 鈴木、名古屋に出張
～ 衣類発送 (新潟へ) の手はず整える
- 6/26 (木)
- 6/30 (月) 税関倉庫への物資搬入
～ 米類 (56t) ・小麦類 (1t) ・砂糖 (3.5t) ・粉ミルク (0.5t) ・その他食糧 (1t)
- 7/7 (月) 衣類 (6t、750箱) の総量 68t
- 7/14 (月) 訪朝団 (村井・北垣・栗田)、新潟港で記者会見。物資の船積み
- 7/15 (火) 訪朝団出発、万景峰 92 号にて新潟港を出港 (船中泊)
- 7/16 (水) 万景峰92号元山港に入港 (元山泊)
- 7/17 (木) 物資荷下ろし、通関手続き、配布計画の手配
金剛山見学 (金剛山泊)
- 7/18 (金) 江原道元山市内・アンピョン郡の育児園・幼稚園・子ども病院等訪問、物資配布
途中トンチョン郡被害地域 2ヶ所視察 (元山泊)
- 7/19 (土) 平壤へ移動、サーカス見学 (平壤泊)
- 7/20 (日) 故金日成銅像に献花、万景台・主体思想塔等見学 (平壤泊)
- 7/21 (月) W F P 平壤特別出張所、水害対策委員会対外活動分科会訪問
朝鮮革命博物館見学 (平壤泊)
- 7/22 (火) 朝鮮歴史博物館・朝鮮民俗博物館見学、栗田空路で帰国 (平壤泊)
- 7/23 (水) 元山へ移動 (元山泊)
- 7/24 (木) 元山市中坪協同農場の”水やり”見学、農民と一緒にバケツリレー
万景峰92号にて元山港を出港 (船中泊)
- 7/25 (金) 万景峰 92 号新潟港に入港、訪朝団 (村井、北垣) 帰国
- 7/26 (土) 総連中央本部訪問、SVAとの情報交換
- 8/2 (土) 訪朝団帰国報告会 (於：神戸YMCA)

【募 金 報 告 (1997.8.1.現在)】

1. 義 援 金

総 計	¥ 9,873,532	食糧買付	6,031,915	記録・報告費	約 500,000
	(730 口)	倉庫及び輸送経費	1,107,272	繰越金	約 1,600,000
		連絡調整事務費	603,152		

2. 支 援 物 資

総 計	68.0t	米 類	56.0t	粉ミルク	0.5t
		小麦類	1.0t	その他食品	1.0t
		砂 糖	3.5t	衣 類	6.0t (750 箱)

【視察報告】

1. 江原道育児院（元山市内）

職員 85 名、3 交代 24 時間勤務、250 人収容（水害前は 35～50 人）

生後 6 ヶ月の乳児 7 人がいる部屋では栄養失調 1 度～3 度と判断される乳児が 2 人いた。うち 1 人は 3 度と判定されているが、何故入院させないのかと思う位重症である。腹這いになったままじっとしており、視線だけが私達を追っているという状態で、腕や足は痩せこけている。またこの部屋では頭皮に皮膚病を患っている乳児が 3 人もいて、内 1 人は頭に包帯をしていたので「どうしてこの子達は頭にケガをしているのですか？」と聞くと、「抵抗力がないので治りにくいようです。」という答えが返ってきた。（写真 1）

2. 平和幼稚園（元山市内）・・・キム・ユドク園長

350 人収容（6 才までの児童）、内 12 人が栄養失調 3 度（4%）

配給状況は 100g～135g（水害前は 300g）

ここの幼稚園はもともと模範施設として、書道の上手な児童、朝鮮画の上手な児童が政府から表彰されている所で、その為か金日成書記からメリーゴーランドやプールの滑り台が寄贈されている。栄養失調 3 度というのは入院をさせなければならない程度であり、1 度、2 度の児童はどのクラスにも 5～6 人はいる。（写真 2）

*元山市内には工場や協同農場内施設も含めて 480 の幼稚園がある。2 つの施設のどのクラスでも私達が訪ねた時には、間食の時間でビスケットと粉ミルクが用意されていた。どのクラスもじっと黙っていて静かにおやつを取っていて、動いたりおしゃべりしたりする児童は誰一人いないのが印象的であった。

3. 江原道小児病院（元山市内）・・・院長、副院長、外科部長が応対

250 床の保有で現在は 146 床を使用

(3 月末にも国連児童基金 (UNICEF) の代表団が来院した。)

水害で両親を亡くした 14 才と 12 才の児童が入院しており、特に 12 才の子どもは重症の栄養失調である。軍内の病院で治療後、当病院に移されてきたとのこと。ビタミン不足の為、夜盲症を併発している。同じ部屋には、難民の子ども達に見られるような手足が極度に細く、肋骨が浮き出している子ども (1 才 6 ヶ月) がもう 1 人入院していた。母親に抱かれて母乳を飲んでしたが、回復するのだろうか懸念される。当院での栄養失調以外の疾病はという質問には「1 大腸炎、2 肺炎、3 脳膜炎、4 虫垂炎、5 脱水」と答えてくれた。栄養失調には下痢と肺炎が併発するようで、子ども達にとっては地獄のようなものである。ちなみに「水害前までは栄養失調で入院する児童はいなかった」とのこと。7 月 8 月には暑さの為入院患者が増え、残りのベッドも満床になるそうだ。

もう 1 人の 14 才の少年も栄養失調であるが、2 度くらいであろうか。背丈は低いと思わなかった (写真 3)。個人的な関心として足爪が左右とも黒くなっているの、栄養失調と関連があるのかと思い質問すると、靴による圧迫の為だと返ってきた。共和国の人々の靴のほとんどは、”便利靴”といわれているスニーカー一色と言って過言ではない。とにかくよく歩くようで、それから考えると爪が痛められても当然かもしれないが、締め具のないスリッポンタイプのスニーカーで何 km も歩いていることが不思議である。

* 江原道内には 16 の子ども病院がある。

4. 江原道アンピョン郡郡営幼稚園・・・チェ・ファヨン園長

250 人収容、15%が栄養失調 (内 3 度は 20 人で入院している)

自宅で朝・夜は食べるのでともと園では 1 食であったが、今は半分にもならない状態。正常なカロリーを維持しようとすれば白米 100g・ミルク 100g・砂糖 15g を摂取しなければならないそうである。栄養失調 3 度の子ども達が入院しているのは、担当医が週に 2 度検診に来園し、向かいに病院があるためである。園長曰く「他の幼稚園よりましである」とのこと。22 人のクラスに案内されたが、空席が目立つので (9 人が欠席) 質問すると、「内 5 人が入院、4 人は家庭で休養」とのことだった。栄養失調のため幼稚園に来れないのかという質問には、はっきり答えてくれなかった。平壤市内の施設ならばともかく、このように郡や里 (日本で言う”村”の単位かと思う) になると幼稚園までの通園距離が長い為、行くことができないのだろうと推測する。

* アンピョン郡内には 53 ヶ所の幼稚園がある。アンピョン郡の人口は 9 万人

5. 江原道アンビョン郡総合託児所・・・キム・ボベ所長

400人収容（生後4ヶ月から5才児までを託児）、栄養失調3度は入院、1度は15%食事は3回取るが水害前の70%の配給となっている。

ここの託児所はもともと健康優良児の多い施設として表彰されているためか、それほど気になる児童はいない。全体的には非常に元気であり、私達訪朝団が帰る時には児童がベランダに出てみんなが大きな声を出して手を振っていた。

*アンビョン郡には95ヶ所の託児所がある。

◎元山市内中坪協同農場視察（7/24 午前6:00～）

共和国ではほとんどが国営の協同農場である（最近は少し個人経営の農場も出てきているとのこと）。農民に対する配給は、1年に1回まとめて行われるが、収穫目標に達しなければ、減らされるとのこと。訪朝団が視察した中坪協同農場では今、毎朝毎夕、大衆動員がかかり、2時間ずつ畑に水やりをする（こちらでは『日照り戦闘』とっている）。約100人ほどが出ており、まさに人海戦術でトラクター等の農耕機具が不足している為人力に頼るしかなく、農民はかなり疲れているようである。この地域のトウモロコシ畑はすでに枯れているものや、葉が折れ曲がってしまっているものが目立つ。視察の後帰路で協同託児所のようなものが見えたが、私達が視察した4ヶ所の施設とは大分違うようである。幹線道路から里の道路に入ると、非常に道路事情が悪く、雨が降ると車が通れるとは思えない事情である。（写真5、6）

◎元山から平壤への 180km の道のり

元山から平壤へは 1 本だけ国道が通っており、約 180km ある。途中何カ所もの検問所があり、一般の人は通行証がなければ通れないようで、平壤市内に誰でも入れるという事情ではないらしい。途中全長 4km もあるトンネル工事をしている最中で、通れるのは早朝か昼休みの時間しかない。私達訪朝団といえども検問所毎に交渉をしてやっと通れるというほど、難しいようである。もしこのトンネルが通れなければ、遠回りでしかも相当危険な崖っぷちを走る羽目になるそうである（余分に 3 時間もかかる）。国道は完璧に舗装しているというわけではなく、乗り心地は悪い。約 180km を走っている間、人々が黙々と歩いていたたり、また日影で小休みをしている光景が延々と続く。大型トラックやジープも走っているが非常に少なく、トラックには人々がこぼれんばかりに乗っている光景もよく目にする（もちろん一般車はほとんどと言っていいほど走っていない）。同時に再三再四にわたりトラックの故障に出くわし、結構大変な故障のようであるが各々自分たちで直していた。とにかくよく歩くようで、時には靴を手にして裸足で歩いている姿も目にした。みんな黙々と歩いているが、何の目的で歩いているのか見当がつかない程良く歩くようである。ただ中には重そうなリュックを背負って歩いている人もいたので、この人達は買い出しに行った後かもしれない。共和国では今は「自由市場」といってヤミ市を黙認しているようなので、そのための買い出しかもしれない（残念ながら今回は配給所・自由市場を視察することはできなかった）。とにかく平壤市内でも、この国道沿いでも、歩いている人達は日本のようにおしゃべりをしながら歩かないので、何か変な気がする。

国道の両側には緑色をした田畑が延々と続き、所々赤旗が立っているのは、ここが『戦闘農場』であるという目印だそうだ。今度もし訪朝の機会があれば、是非この 180km の道のりを歩いてみたいと思う。

◎被害地域の状況

江原道トンチョン（通川）郡 ロサン里

江原道トンチョン（通川）郡 グウム里

* 江原道は人口 90,000 人

視察した場所はどちらも下流で海に近いこともあり、山からの流水と海から戻ってくる水量で川が氾濫、水田の上を広域にわたって土石流が覆い、2m も土砂がかぶったとのこと。山の地質として石が多いためと、政府の耕作地の拡大（全土で 30 万 ha、内 40%が江原道）に伴って治山治水対策が充分でなかったことも影響している。グウム里は江原道でも最大の被害、この河川は上流から 12 本の川が合流して 1 本になり、海へ流れるという地理的条件もあって被害が拡大した。山奥部にあった鹿、豚の牧場も崩壊、平野にあった食料工場も流される（ロサン里の方は 1 時間に 350mm の降雨となる）。

しかし国家をはじめ、軍、人民が総力をあげて復興作業に取りかかり、今は水田には稲が生育し畑にはトウモロコシ等も植えられている（2 ヶ月間干ばつが続いている為、成長は芳しくない）。『戦闘農場』といって、自力再建に戦っているという認識で軍隊も農民も一緒になって田植え、トウモロコシの作付け、草取り作業にかかっている（トウモロコシの収穫は 8 月、稲の収穫は 10 月）。車窓から田畑を見ていると、40~50 人が河川よりバケツリレーで乾ききった畑に水を運んでいる光景がよく見られた。また 7/19 は土曜日で午後は「土曜学習」となっており、小学生や中学生もバケツを持って

田畑に援農に行く。(写真7)

◎首都、平壤の様子(人口250万人)

平壤には7/19~7/22の4日間滞在した(高麗ホテル1泊約8,000円)。外国人観光客やビジネスマン、あるいは今回のような訪朝団等は全てこのホテルに宿泊するようで、ここにいるときさまざまな人達に会える。ホテルの部屋から夜9時頃に街を見ると、あまり電気がついていなくてとにかく暗い。車もほとんど走っていない(日曜日はノーカーデーで公用車しか走れない)。ホテル近くの交差点も、人々はそれほど多くない。平壤駅前とそこから大同江(テドン川)まで伸びる道路には、通勤のための人々が足早に黙々と歩いている。以前は労働者のほとんどが、弁当箱を下げて通勤する光景が見られたらしいが、今は配給減のためかその姿は見られない。トロリーバス(2台連結)と電車が走っており、通勤ラッシュという光景も見られる。一般車は数えるほどしか走っていない。やはり経済の悪化から石油不足が顕著に出ているようである。高麗ホテルも市内のメインホテルであるにもかかわらず、客室の廊下等は節電している。(地方のホテルはロビーでも節電しており、いつも薄暗くエレベーターも常時動いていない。私達が訪朝している間に金曜節電という日があった。)

ホテル近くの道端に座っている人に配給状況を聞くと、「農村部よりはましかもしれないが、満足するほどは食べられない。」と言っていた。また、日本人と見て物を売りつける光景も見られた。外貨を手に入れると、ホテルのショップで食料品も買い求めることができるし、”自由市場”(ヤミ市)もあるようで、お金があれば多少は米も手に入れることができるようだ。ただ平壤市民はこちらが色々聞こうとしても、多くは語らない。平壤に関しては全体的には思ったほど食糧危機がひっ迫しているような雰囲気は感じない。

故金日成主席の生家がある万景台には、土曜日だったためか市内の小学校や中学校から、『土曜学習』ということで、子ども達がバケツを手にし、枯れた芝生に水をやっている光景を目にした。万景台だけではなく、平壤近郊の田畑にも”水やり”のためにゾロゾロ歩いている子ども達の姿が目につく。共和国では田畑への水やりは『日照り戦闘』、水田の草取りは『草取り戦闘』、そのような田畑を『戦闘農場』という表現をしている。「人民が一致団結し、自力で生産性を高める」べき手法だろう。また「金曜学習」「土曜学習」といって、学校や職場でも学習の時間が多いことが伺われる。

【水害対策委員会対外活動分科会との懇談】

1. 3年に及ぶ被害のため、今食糧不足に見舞われている

- ・ 94年10月 最大直径5cmというヒョウの被害にあう。
耕作地は全土で200万ha（内50万haは果樹園）
94年は17万ha、102万tの被害
- ・ 95年7月～8月の豪雨による水害－平均583mm/日の雨量（1時間～2時間で最大600mm）
8道145市・郡
520万人 の被害（死亡者68名）
150億ドル
- ・ 96年7/15～27の豪雨による水害（24～27の3日間が最大）
黄海南北道では475mm/日～740mm/日の雨量
22億7000万ドル、327万人の被害

2. 96年12月が24万6000tしか貯蔵できなかった。

96年は250万2000tの収穫があったが、6月～10月に早期作物として102万t、10月末で142万2000tを消費

3. 97年1月～3月の1人当たり、穀物消費量は100g～300g

- ・ 97年6月末で備蓄はゼロ
- ・ 品種改良や春麦（50日間で育つ）を植えたりと努力はしているが、約150万tは不足している。
- ・ 全体として783万9000tが必要
内訳は 食料用 482万9000t
工業用 140万t
飼料 140万t
20万t
種子 11万t

*WF P等の呼びかけで97年度に20万tが配布されたので、現在では130万tの不足ということになる。

97年の6月にFAO、WF Pが配給状態を調査、予想以上に不足していることが分かった。

WF Pは平壤以外に、7月初、新義州、長津、咸興の3ヶ所に拠点を置く。またモニタースタッフは現在の15人を25人に増員する予定。

<水害対策委員会による支援物資受領書>

<朝鮮民主主義人民共和国周辺地図>

(写真 1) (写真 2) (写真 3) (写真 4) (写真 5) (写真 6)

(写真 7) (写真 8)

施設に配給された支援物資

ビスケットとミルク (支援物資) の間食

W F P 平壤特別出張所にて、Erich Weingartner 氏と共に

<支援物資配給リスト>

1997.5.13. 神戸新聞

1997.7.24. 朝鮮時報

1997.7.18. 朝鮮新報

1997.8.3. 読売新聞

1997.8.2. 毎日新聞 (夕)

1997.8.2. 神戸新聞 (夕)